



# 八小だより

武蔵村山市立第八小学校 令和4年2月1日

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html>

## 教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- やりとげる子
- 礼を重んずる子

## 行動目標

わけをそえて話すことができる子  
教室で話しているのは一人



## 「世の中の大事なこってたいい面倒くさい」という言葉に思うこと

副校長 植杉 義久

「世の中の大事なこってたいい面倒くさいんだよ。」この言葉は、NHK プロフェッショナル 仕事の流儀という番組内で映画監督の宮崎駿氏から発せられたものです。宮崎駿監督と言えば、「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」など数多くの長編アニメーション映画の監督として知られています。私は幼いころからこれらの作品を劇場で、テレビで何度も何度も観ては、興奮したり感動したりしたことを覚えています。番組では、70歳を越えてなお、朝から晩まで机にへばりついて鉛筆を握り、新しい作品を生み出し続ける宮崎監督の姿と製作現場が映し出されていました。

私は、そんな素敵な作品を創られている宮崎駿監督が「面倒くさい」という言葉を肯定するような発言をすることにとっても驚くとともに、私と同じように「面倒くさい」と思われることに対して安心感と親近感をもちました。そしてふと、学校生活における「面倒くさい」を考えてみました。

私が担任をさせていただいていたとき、子供たちが「面倒くさい」と洩らす学習・活動がありました。手間のかかる計算、漢字の練習、作文を書く、宿題、後片付け、掃除などでした。その都度私は、黙って頑張らなさい、周りの人のやる気を奪う発言は止めなさい、など何とかして「面倒くさい」という言葉を言わせないようにしていました。この言葉を発することで好結果は生まれないと思っていたからです。しかし、4桁÷3桁の計算を繰り返すこと、画数が多い漢字を何度も書き取ること、遊びたいけど宿題を先に終わらせることなどを手間だと感じる気持ちは理解できました。また、挨拶や学校に行くことなども「面倒くさい」と言っていた子供もいます。その子供たちには挨拶や学校に通う大切さなどを話しました。ここでも「面倒くさい」と言わせないようにしていたかもしれません。しかし、宮崎監督の「面倒くさい」を連呼しながらも真摯に仕事に向き合い、妥協なく作品を作り上げる姿からは、負のオーラは感じませんでした。

宮崎駿監督は番組の中で「面倒くさいっていう自分の気持ちとの戦いなんだよ」とも言っています。仕事の中の「面倒くさい」と学校生活での「面倒くさい」は質が違うかもしれませんが「面倒くさい」という気持ちに向き合い、それを乗り越えて時に大きな成果が表れることは同じではないでしょうか。ですから私は、子供たちが「面倒くさい」と感じているものに努力をしているのなら、そのことは頑張ったねともっともつと褒めることができたのではないかと思うようになりました。

とはいえ子供たちが教室で「面倒くさい」と言いながら学習したり、活動したりすることが適切だとは思いません。学校生活の中で「面倒くさい」と感じさせないような学習の工夫や、教職員の声掛けが必要で、大人は、子供が面倒くさいと訴えてきたとき「面倒くさい」と発することが問題なのではなく、何を面倒くさいと捉え、それにどのように向き合っていくのか共に考えていくことが必要なのだと感じました。

「面倒くさくないところで生きてると、面倒くさいのはうらやましいなと思うんです。」と話す宮崎監督の境地にはたどり着けませんが、保護者の皆様と学校とが協力して子供たちに「世の中の大事なこと」を伝え、努力の後押しができればと考えています。